

令和4年生駒市教育委員会第12回定例会会議録

1 日 時 令和4年12月26日(月) 午前9時30分～午前11時03分

2 場 所 生駒市役所 401・402会議室

3 審査事項

- (1) 報告第17号 臨時代理につき承認を求めることについて(令和4年生駒市議会第7回(12月)定例会提出議案の意見について)
- (2) 報告第18号 令和5年二十歳のつどいの開催について
- (3) 議案第27号 幼稚園教諭・保育士人事異動方針について
- (4) 議案第25号 生駒市立生駒南小・中学校の今後の方向性について

4 教育委員会出席者

委員(教育長職務代理者)	飯島敏文	委員	神澤創
委員	坪井美佐	委員	レイノルズあい
委員	伊藤智子	委員	古島尚弥
委員	中川義三	委員	吉尾典子

5 教育委員会欠席者

教育長 原井葉子

6 事務局職員出席者

教育こども部長	奥田吉伸	生涯学習部長	八重史子
教育こども部次長	坂谷操	教育総務課長	山本英樹
教育指導課長	前田伸行	幼保こども園課長	松田悟
幼保こども園課指導主事	喜多美枝子	幼保こども園課指導主事	湯川祐美子
こども総務課長	武元一真	子育て支援総合センター所長	角井智穂
生涯学習課長	清水紀子	図書館長	西野貴子
図書館課課長	錦好見	スポーツ振興課長	西政仁
教育総務課課長補佐	石田昌代	教育指導課課長補佐	花山浩一
教育政策室長	日高興人	幼保こども園課課長補佐	福山清美
こどもサポートセンター所長	若狭美登里	生駒駅前図書室長	入井知子
図書館南分館長	谷江真美子	教育指導課教育政策室主幹	三室哲哉
教育指導課教育政策係長	松田美奈子	教育総務課(書記)	佐竹裕介
教育総務課(書記)	吉川優香		

7 傍聴者 8名

午前9時30分 開会

○開会宣告

○日程第1 前回会議録の承認

○日程第2 教育長報告

○日程第3 報告第17号 臨時代理につき承認を求めることについて（令和4年生駒市議会第7回（12月）定例会提出議案の意見について）

・臨時代理につき承認を求めることについて（令和4年生駒市議会第7回（12月）定例会提出議案の意見について）、山本教育総務課長、松田幼保こども園課長から説明
<参照：議案書p1～4、資料1>

（質疑）

イノムラ 委員：説明された繰越金の件で、給食費徴収システムの導入の遅れがあるとのことだが、遅れの原因は何か。

山本 課長：現在使用しているシステムの情報を活用して、次のシステムに移行するために個人情報を用いる。その部分の調整が少し遅れた。

吉尾 委員：通園バス安全対策費を計上しているが、具体的にどのような安全対策なのか。

松田 課長：12月20日に国土交通省から「送迎用バスの置き去り防止を支援する安全装置のガイドライン」が示された。それに沿った装置になる。国土交通省から2種類示されている。一つは車内後方にブザーを付け、エンジンを切ったときにそのブザーが鳴るものである。ブザーを消すために車内の後ろまで行く必要があり、その道中で子どもがいれば見つけることができるというものである。もう一つは車内に人感センサーを取り付けて、エンジンを切れば作動し、動くものを感知すれば、外に向けてブザーが鳴るというものである。生駒市の公立幼稚園バスは毎日運行後に保管場所の市内中学校に戻り、必ず整備と消毒の作業をしている。人感センサーにすると作業中にブザーが鳴ってしまう。現状では、必ず車内で確認できるように、日頃から園に届けたときに、運転手と添乗員でダブルチェックをして、園の先生に取り残し児童がない旨の報告をしているので、基本的には大丈夫だと考えているが、義務化ということもあり、念には念をとということで、車内にブザーを付ける方法を考えている。

伊藤 委員：私立園はどうなっているか。

松田 課長：私立園については11月中に必ず現地調査をするよう国から通達があったため、県と市の職員で立会検査を行った。市立と同じようにダブルチェックをしていたので、今のところ問題はないと考えているが、義務化にむけて今後ブザーが設置されることになる。私立の保育園・幼稚園が独自で契

約することになり、どちらの装置を付けるのかはまだ分からないが、できるだけ早い段階で付けてもらえるようお願いする予定をしている。

審議結果 【報告のとおり承認】

- 日程第4 報告第18号 令和5年二十歳のつどいの開催について
- ・令和5年二十歳のつどいの開催について、清水生涯学習課長から説明
- <参照：議案書p5～6>
- (質疑) なし

審議結果 【報告のとおり承認】

- 日程第5 議案第27号 幼稚園教諭・保育士人事異動方針について
- ・幼稚園教諭・保育士人事異動方針について、松田幼保こども園課長から説明
- <参照：議案書p7～8>
- (質疑)

飯島委員：基本方針の(2)のところで「主幹教諭・主幹保育士の管理職への登用を積極的に進める。」とあるが、小中学校のように管理職を希望する先生が少ないという状況はないか。

喜多指導主事：今のところ管理職候補として、2年後3年後の退職に向けての人数が確保できている状態である。今年度の管理職任用試験については、その後の人材として登用に努めたい。

坪井委員：基本方針の(4)で「幼保間の人事異動を積極的に進める。」とあるが、具体的には何%ぐらいの先生が異動される計画か。

喜多指導主事：昨年度は幼稚園から1名、保育園から1名ということで2名の人事異動を行った。今年度は全職員に対して、希望を募るアンケートを実施し、希望者があれば、%にこだわらず、積極的に交流の場を設けるよう考えている。

審議結果 【原案のとおり可決】

- 日程第6 議案第25号 生駒市立生駒南小・中学校の今後の方向性について
- ・生駒市立生駒南小・中学校の今後の方向性について、日高教育政策室長から説明
- <参照：議案書p9～12>
- (質疑)

飯島委員：文言の確認も兼ねて「Ⅱ今後の方向性について」以降を読み上げさせていたいただきたい。

(議案を読み上げる)

飯島委員：事務局で意見を集約してもらい、まとめてもらっている。質問・意見などをいただきたい。

伊藤委員：全体の方向性に対してはおおよそ私も同意見であるが、具体的な文章の意味が取れないところがある。11ページの「Ⅱ今後の方向性について」の第1段落の最後の文章「長期にわたって子どもの成長を見守る体制が少子化の状況にある学校教育において、小中一貫教育は今後ますます重要性が高まるものと思われる。」という部分について、主語と述語の関係が分かりづらい。参考資料にある飯島委員の元々の文章の方が分かりやすい。もし小中一貫教育をどこかに入れたいのであれば、別の場所にもう一文作るか、配置を変えた方が良いのではないか。このままでは、少し意味が取りづらいように思うがどうか。

飯島委員：目を通してご意見をいただきたい。

伊藤委員：飯島委員の元の文章である「長期にわたって子どもの成長を見守る体制が少子化の状況にある学校教育でますます重要性を増すものと思われる」の方が非常に分かりやすいと思った。私の意見だが、これに戻してもらった方が良いと思う。

レイルス委員：確認だが、伊藤委員から指摘があった文言は少し調整等が必要かと思うが、この案件は本日である程度目途をつけた方が良いのか、まだ継続案件にできるのか、それによって文言調整の精度も変わってくるかと思うので、先にその確認をしたい。

山本課長：今回については、まだ継続案件という形で結構だ。次回、教育委員会の前に総合教育会議があるので、意見があれば今回出してもらって、それを踏まえて総合教育会議に臨みたいと思うので、そのように取り扱ってもらえば良いかと思う。

飯島委員：文言の修正等は総合教育会議まで可能であるということで、伊藤委員から意見があった点についても後でまた意見を集約して、それを反映して微調整をするということでお願いする。

レイルス委員：この議論について、一番大事なことは、教育委員会や学校現場、地域の方等のそれぞれの意見をまとめながら進めていくことであると思う。それぞれが独自で意見を出しては何も進められないので、協議を重ねながら相互理解を深めていくということが大事だと思う。そのような点から今回、「教育内容の方向性」という新たな2の項目を設けることを提案し、また、様々な意見を取り入れながら柔軟に検討していくという文言も追加した。小中一貫教育のメリット・デメリットというのは様々な意見があるかと思う。ただ、生駒市の教育として小中一貫教育を進めていくということ、すでにあり方ということで、数年前にも協議している。また文部科学省からもそれを進めていく施策であるということが、数年前から定義されているので、その部分に関しては教育委員会として、ブレなく進めていきたい

とは考えているが、ただなぜそれが良いのか、なぜ生駒市の教育としてそれを求められるのかというのを引き続き丁寧に説明していく必要もあるかと思う。記載した準備会(検討委員会)というのは、皆様からの様々な意見を柔軟に取り入れられる場であるようにということを確認しながら進めていければと思っている。

飯島委員：2の「教育内容の方向性」を設けたことの意義と、それから丁寧に認識を共有しながら準備を進めていくというように、準備会(検討委員会)の設置の意義について意見をもらった。これについて、他の委員の方はどうか。

吉尾委員：これまでの経緯の中に「コミュニティ・スクール」や「地域との関係」について加えた方が分かりやすいかと思う。小中一貫というのが最大の課題ではあると思うが、保護者や地域の方々の力を借りて、子どもたちを育てていくということも大きな意義だと私は思う。

伊藤委員：前回の会議で「施設の方向性」の(2)と(3)は地域が学校を活用する視点であるが、学校というのはまず子どもたちのものであるもので、学校を作る三つの柱のうちの2つを地域が占めているのは、バランスが悪いのではないかと意見した。しかしその代わりとして、地域の方が子どもたちの学校教育を支えるという意味で「コミュニティ・スクール」という言葉を入れたらどうかという吉尾委員のご意見は良いと思う。

飯島委員：学校運営協議会が設置されて、「コミュニティ・スクール」がスタートしているところから、地域との関係について、何らかの形で言及した方が良いのではないかという意見であるがどうか。本日文言を確定しなければいけないことはないようだが、総合教育会議までにどのようなレベルで地域社会との関連についての言及を入れるか等のご意見をいただいて集約するという形でよいか。

山本課長：総合教育会議用の資料(原案)を作っていく必要があるので、申し訳ないが、意見をいただきたい。メールで良いので1月6日までに意見をもらえれば、調整を取る。

レックス委員：本来であれば多くの傍聴者がいるこの場で協議を重ねて言葉を詰めていくというのが理想的かとは思いますが、少し準備不足のところがあり、メールで持ち帰るという形になり申し訳ない。ただ先程からあるように、様々な意見を取り入れることは大事であるので、今現在の学校や地域の方からの意見を共有し、受け止めた上で、方向性の文言を考えていく必要があるかと思う。事務局にも同じようにお願いしたい。

奥田部長：12月25日に南コミュニティセンターにて住民向けの説明会をした。そこでいただいた多くの意見を各委員に共有しながら、文言修正のための参考にしていただきたい。また、11月6日に保護者向けの説明会も行った。こちらは意見をまとめた資料がすでに出来ているので、それも参考にしていただき、文言修正に活かしてほしい。

- 飯島委員：慎重に意見を交換し、理解を共有するというのが重要かと思うので、すでにもらっている意見を踏まえて1月6日までに、文言の調整等をいただくということで、各委員から意見を出してもらいたい。
- 坪井委員：今後の方向性について、一番上に「施設の方向性」が来るのはどうしても違和感がある。何度も教育長に相談し、「こういう手順を踏まないといけなから施設が先だ。」と説明を受けて納得しているつもりであるが、市民や保護者の目線を考えると、どうしても学校教育の内容が先で、それに合わせて施設を作っていくというのがしっくりくと保護者として感じている。今後の方向性の一番上を「教育内容の方向性」にできないものか。
- レイノルズ委員：正にそういったことも含めて私達の意見というのが求められているので、ぜひ積極的に意見として出していただければいいのではないかと思う。
- 飯島委員：今の坪井委員・レイノルズ委員のご意見というのは最終的に最後の部分で示された方向性、第1に「施設の方向性」があって、次に「教育内容の方向性」「校区の方向性」と続くという部分について、やはり施設が第1では違和感がある。まず教育をどう進めるかという方針が上にあった方がいいのではないかというご意見である。こちらも1月6日までに意見を出して集約してもらおうということで大丈夫か。
- 奥田部長：文言修正等で内容が大きく変わる場合も可能性としてあるが、その中でも構成については最終調整をさせてもらいたいと思う。いわゆる市民・保護者目線も含め、委員からまず多くの意見をもらい、それを集約して案を作成したい。そこでなおかつ修正があれば修正したいが、一旦総合教育会議に示せるような形にはまとめたいと思っている。
- 中川委員：先ほどの一番上に施設が来ている件について、生駒南小・中学校を見学させていただいて、教育内容はICT機器等も活用しながらすでに新しい方向に向けて進められているように感じた。一方で気になったのは雨漏り等の施設の老朽化である。私としては見学で一番先に思ったことが、施設が綺麗になってほしいということだったので、「施設の方向性」の記載が先でも良いのではないかと思っている。子どもたちの活動については、日頃から非常に楽しくやってくれているように思う。
- 飯島委員：ぜひ6日までに集約して調整をしてもらいたいと思う。これは進行係としてではなく、委員としての意見だが、学校教育が今後どうなるのかということは予測がつかない部分もあるが、少子化によって学校が段々小さくなっていく中で、教育の可能性も萎んでいくような状況にあるのかもしれない。ただ、これから子どもたちが減って学校が小さくなっていくことへの対応を考えるのではなく、今後30年50年の先にどのような学校を目指すのか、求められているのかを考え、実現するための努力は、学校の衰退や小規模化等が起きてからでは遅いと感じる。したがって今回この方向性についてまとめる際に、今後長期にわたって生駒市の学校をどのように運

営していきたいか、作り上げていきたいかという意見をぜひ自分としても反映させていきたいと思っており、各委員の意見も伺いたいと思うので、よろしく願いしたい。傍聴に来てもらっている方もおられる中で、この文言レベルの細かい議論が、本日完了できなくて非常に心苦しいところだが、よりよい形で次回までに原案を出してもらって、さらに総合教育会議・定例会にて文言を確定していくという形で取り運ばせてもらいたい。

吉尾委員：南小中学校の今後の方向性については少し外れるかもしれないが、現在子どもたちの学び方が多様化している。また、不登校傾向の子どもたちも増えてきている。こういった中で、従来の学校と子どもたちが求める学び方に少しずつずれが出てきているように思う。今までは小学校は1年生から6年生、中学校は1年生から3年生という、その義務教育の形であった。教育を受ける年齢としてはベストだと思うが、1人1人の子どもにとって適当かどうかということも大きな課題になってくる。1人ずつに合わせることは学校にとって非常に難しい。飯島委員の意見のような長期的な見通しと今日の前にある課題を両方とも見据え、子どもたちが本当に学びたいと思える学校、行って楽しいと思える学校にしたいという気持ちは忘れないようにしたい。そうすることで方向性が活きると思う。基本である生駒市教育大綱をもう一度見直しながら、この方向性を考えていきたい。

飯島委員：吉尾委員からの意見のように、そこで学ぶ子どもたちの思いというものをできる限りこの中に反映させるように自分自身考えたいと思うし、知恵を出してもらいたいと思うので、お願いしたい。

審議結果 【継続審議】

○日程第7 その他

・令和5年1月行事予定について、山本教育総務課長、清水生涯学習課長から説明（質疑）

レックス委員：12日開催予定の「生駒南小中学校の今後を考える会議」について、どのような方々が参加予定かと、先ほど6日までに文言調整とのことだったが、この12日の会議結果がいつ頃分かるのかを教えてください。

日高室長：「生駒南小中学校の今後を考える会議」は第3回になる。メンバーについては、前回同様会議の設置要綱に基づいたメンバーで、現在の学校運営協議会のメンバーを中心に、地域・保護者も含めた方々になっている。傍聴については、会場の都合はあるが、一定来てもらうという話をしているところだ。12日に会議を開催するので、6日までにいただく意見については、紙面で何かを示すというより、現状を説明していく形になると思っている。

○追加日程第1 報告第19号 臨時代理につき承認を求めることについて（学校給食センター職員に対する懲戒処分について）

・臨時代理につき承認を求めることについて（学校給食センター職員に対する懲戒処分について）、奥田教育こども部長から説明

<参照：議案書追加日程（非公開）>

◀ 個人情報を含むため、質疑内容は非公開 ▶

審議結果 【報告のとおり承認】

○追加日程第2 議案第28号 生駒市教育委員会事務局職員等の任命について

・生駒市教育委員会事務局職員等の任命について、奥田教育こども部長から説明

<参照：議案書追加日程（非公開）、別紙（非公開）>

◀ 個人情報を含むため、質疑内容は非公開 ▶

審議結果 【原案のとおり可決】

○閉会宣告

午前11時03分 閉会